

ヒナ鳥

労働者委員 木佐貫美保

7月のある朝、工場敷地内の道路わきを歩いていると、目線の端っこにかすかに動く何かをとらえました。風で揺れるゴミかと思い近づいてみると、仰向けで足を小刻みにばたつかせている薄黒い羽根のヒナ鳥でした。上を見上げてみるけれど、巣は確認できません。高さ5メートル程の波型屋根のすき間に巣があるのでしょうか。親鳥は…上を見上げるとスズメが旋回しています。この子はスズメのヒナなのだろうか？

野鳥はむやみに助けるものじゃないと聞いたことがあるけれど、とりあえず仰向けのヒナを重ねたティッシュで起こしてあげる。起き上がったヒナは口をパクパク、羽をパタパタ。長い時間ここにいるのか、弱っているようにも見えます。私は頑張れと声援を送り、その場を離れました。

事務所に戻り「雛鳥 逆さま 落ちた 対処」でスマホ検索してみると、「見守って。ヒナは拾わないでください。」やっぱり触っちゃいけないんだ…。

ケガをしている、車や猫などの危険がない限り人間は手を出さない。近くにいる親鳥に任せましょう。ヒナ鳥は人が考えている以上に飛べない状態で巣立ちをし、枝から枝へ短い距離を飛ぶというよりジャンプをするように移動しながら親から餌をもらい、食べられる餌や敵からの逃げ方を学んで独り立ちしていくそうです。

屋根の周りに木はないので、羽を一生懸命ばたつかせて5メートル程の高さを飛ぶというより下降し、その衝撃で転がって仰向けになり、どうにか起き上がろうと頑張っていたところに出くわしたのだと思います。

数時間後ヒナ鳥の様子を見に行ってみると、そこにはもういませんでした。無事に飛び立ったのかはわかりません。でもきっと、親鳥に励まされながら巣立ちの一步を踏み出し羽ばたいたことでしょう。

見上げれば、真っ青な空。今年の夏も暑い。強烈な日差しに負けず、元気に飛び回っているといいなあ。